

出産支援連携って何？

～安心して妊娠・出産するために～

平成19年4月に分娩機能を停止した福井勝山総合病院は、福井大学医学部附属病院と出産支援連携体制を構築しました。

市では福井勝山総合病院での分娩の再開を目指して、平成27年9月25日にすこやかにて「出産連携支援講演会」を開催し、勝山市での出産について意見を交わしました。

産婦人科の現状

福井大学医学部産婦人科学領域の吉田好雄教授による基調講演「産婦人科の現状」では、我が国の少子化をすすめる原因の一つとして、「晩婚化・晩産化」を指摘してしました。女性の初婚年齢は28・8歳、初産年齢は29・9歳と35年前を比べると3・5歳遅くなっています。出産件数は減少していますが、それと同時に産婦人科医師を目指す人も少なくなっており、福井県だけでなく、全国でも産婦人科医師は不足し、24時間の対応を必要とされる産科領域では過酷な労働の実態があると説明がありました。



吉田好雄教授

産婦も増加しているため、医師にとって心身共に負担が大ききということでした。

安心して妊娠・出産するために

パネルディスカッションでは4人の方が発表し、会場からの質問を受け意見を交わしました。

福井勝山総合病院産婦人科外来で診療を担当している福井大学医学部産科婦人科学領域の黒川哲司准教授からは、出産支援連携体制について説明がありました。「常勤医を配置するためには、まず1人も多く福井勝山総合病院で妊婦健診を受けてください。そして、ぜひ福井大学医学部附属病院で出産してください。」とPRしました。



黒川哲司准教授

福井勝山総合病院の兜正則院長からは、産婦人科外来での取り組みと、現在は使っていない分娩機能もいつでも利用可能な状態に維持しているとの説明がありました。



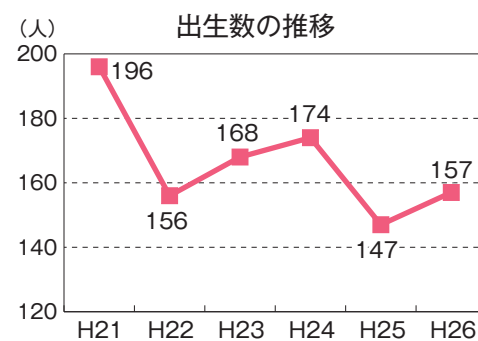
兜正則院長

山岸正裕市長からは、勝山市の出産数の減少や子育て世帯の住民意識調査の結果について説明があり、今後母子育て支援日本一を目指していくという発表がありました。(グラフ参照)



山岸正裕市長

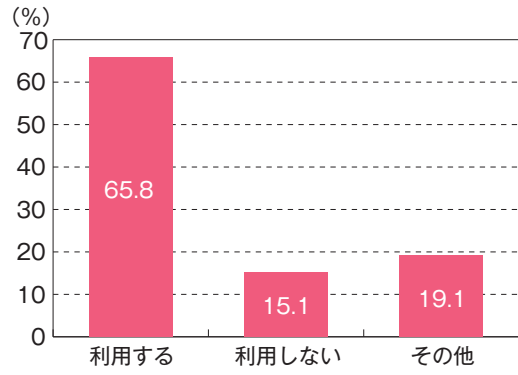
私立保育園保護者会連合会代表の北口円さんからは、勝山での出産・子育て、出産連携のメリットを発表しました。県外出身だったため、知り合



北口円さん

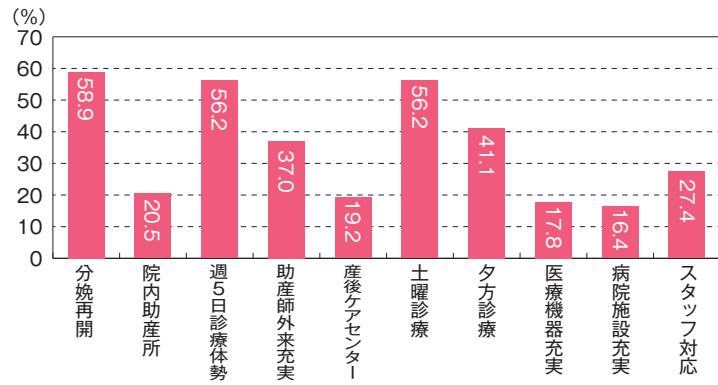
講演会参加者アンケートから

Q あなたやあなたの家族が妊娠した場合、出産支援連携体制を利用しますか(おすすめですか)？



利用しない理由としては、出産までは同じ病院、同じ医師が良いからという意見が多くありました。

Q 福井勝山総合病院の産婦人科に要望することはなんですか？



分娩の再開、土曜や夕方の診療、いつでも受診できる常勤医体制、助産師外来の充実を望む声が多くありました。

福井勝山総合病院、出産支援連携体制を利用しましょう！

出産支援連携体制とは

現在、市内には分娩を扱う施設がありません。そこで、福井勝山総合病院は福井大学医学部附属病院など出産できる医療機関と連携体制をとっています。また、市では出産支援連携体制を利用した妊婦さんに「ここに」妊婦奨励金として10万円を交付しています。

妊婦健康診査は

福井勝山総合病院で

診療日▼火・水・金曜日
診察医▼福井大学医学部附属病院から派遣された医師が担当します

【安心ポイント】

① いざというときも安心のピンクファイル



福井勝山総合病院を利用する方には妊婦中の経過を詳しく書いたピンクファイルをお渡しして

出産は県内医療機関で

出産は妊婦さんが希望する県内の医療機関を自由に選べます。

【水曜担当、玉村医師からのおすすめポイント】

福井大学医学部附属病院で出産すると、福井勝山総合病院で診察を担当した医師が引き続き診察します。赤ちゃんの1か月健診やお



超音波検査の様子

います。
② 胎児の様子がよくわかる超音波検査
平成26年に新たに導入した機械で、赤ちゃんの様子をしっかり診ることが出来ます。



玉村医師

母さんの産後の診察は福井勝山総合病院で受診することができ、赤ちゃんとお母さんの移動の負担も少なくなります。

産後も安心

助産師から産後の過ごし方や母乳トラブルなどの相談を受けることができます。市では産後6か月まで無料で利用できる「母乳相談利用券」を発行しています。ぜひご利用ください。



助産師の方々

健康長寿課(すこやか内) 27・08888